

平成20年度 コンサルタント派遣成果報告会開催 ～各派遣地区からの報告～

まちづくり会館では、「まちづくり協議会」等に対して、専門家を派遣し、まちづくりの技術的・専門的な支援を行っています。

この制度により、平成20年度に派遣された専門家(まちづくりコンサルタント)が、各地区の活動状況や自身の果たした役割などについて発表する「コンサルタント派遣成果報告会」が、5月14日まちづくり会館で開催されました。報告会は3部構成で行われ、それぞれのテーマで報告がなされ、熱心な意見交換が行われました。



■第1部 テーマ【今、ものづくりを考える】



(株)石井計画工房、(株)環境緑地設計研究所、(株)ジーユー計画事務所、(有)地域計画、(有)プランまちさとのコンサルタント5社から、「ものづくり」を取り巻く状況などを踏まえて、それぞれ担当地区の紹介がありました。

その後の質疑応答の中では、「ものづくりに関する

地域ニーズと行政の事業実施とのギャップが問題となっているのでは？」との問いかけに対して、「地域は行政の予算や体制の変化に一喜一憂してられない。時間がかかっても着実に進めていだけ」「各局で、地域の要望に対する対応が違う」「今は側溝の蓋掛け程度と割り切っている。時代・地域に合わせて都市計画の見直しを」「協働のまちづくりを進めていくためには、地元と行政が自由に意見を言い合える関係を築くことが大切」「地域の信頼が得られていれば、事情は理解してもらえる」などのご意見がありました。

■第2部 テーマ【地域活動とまちなみづくりを考える】



(株)コム計画研究所、(株)コー・プラン、(資)ゼンクリエイト、(株)まちづくりワークショップ、(株)地域問題研究所のコンサルタント5社から、「地域活動とまちなみづくり」の切り口で、それぞれ担当地区の紹介がありました。その中で、「まちづくり」と「まちなみづくり」の関係論や、「まちなみづくり」の成功要因の分析なども披露されました。

その後の質疑応答の中では、「地域活動を活性化する工夫は？」との問いに、「楽しく参加できることが大事」「震災後の流動化するまちの中で、広報紙を200号続けている。継続が力」「紙で作るまちのジオラマ模型といった参加型のイベントを計画中」「まちづくり活動の継続と幅広い年齢層の参加が焦点。まちの良いイメージを地元で共有できるかが課題」「地域が発信したい魅力にあわせて、イベント内容を工夫している」などのご意見がありました。

また、「神戸の景観はどうあるべきか、京都に負けないくらいの大論争を期待している」とのご意見もいただきました。

■第3部 テーマ【まちづくりの総合的な展開を考える】



北野工作室、(株)都市調査計画事務所、森崎建築設計事務所、(株)遊空間工房 のコンサルタント4社から、「総合的な展開」の視点から見た、それぞれ担当地区の紹介がありました。

その後の質疑応答の中では、「担い手やまちづくり

の輪を広げていく工夫は？」との問いに、「子供を巻き込んだまち歩き等を継続的に実施」「サイダー造りなど若い発想が生きている。若者を前面に立てて、お年寄りはそれを見守っている」「新駅の誕生が、分断されていた地域の協力のきっかけとなった。若い世代への引き継ぎを意識した活動をしている」「地域の団体間の不協和音もあったが、偶然若い人が参加し、雰囲気も変わってきた。役員の若返りを図ると同時に、肩書から離れて個人の立場で参加してもらっている」などのご意見がありました。

1階オープンギャラリーの展示から

「プレ塩屋百年百景」 展覧会



この5月に、まちづくり会館1階のオープンギャラリーで、「プレ塩屋百年百景」展覧会が開催されました。「塩屋百年百景」の企画は、塩屋まちづくり推進会が、垂水魅力アップ事業活動助成を受けて、2010年の写真集発行を目指して取り組んでいるものです。

今回の展覧会では、これまでの収集写真の中から約100点が展示されました。

海や山の豊かな自然や、そこに暮らした人々の姿が生き生きと写しとられ、当時の人々の話し声や波音までも聞こえてくるかのようでした。

6/29（月）から7/17（金）まで、垂水区役所1Fロビーでも展示される予定です。まだご覧になっていない方、もう一度見たい方もぜひお運びください。



「塩屋百景」事務局では、昔の塩屋の写真を集めています。かつて塩屋で子供時代を過ごし、今は遠く離れた地に住む方たち、そして塩屋を訪れた友人や親戚の方々など、塩屋の外におられて塩屋を愛するみなさんにも、広くこの企画の趣旨をお伝えいただくと幸いです。

みなさん、いま一度、押し入れの奥のアルバムを探していただけませんか。どんな写真でも結構ですので、下記までご一報ください。

問い合わせ先 「塩屋百景」事務局

〒655-0872 神戸市垂水区塩屋町3丁目5-17 旧グッゲンハイム邸長屋内

tel/fax:078-220-5312 e-mail:shioya100@yahoo.co.jp web:shioya100.exblog.jp

西出・東出・東川崎の空間形成①

空間像研究会の活動 その10

大塚 映二（空間像研究会）

1. どこにあるまち？

地元の方々には失礼を承知で言いますが、「西出・東出・東川崎地区」と聞いて、どこにあるか思い浮かべることができる方はそう多くはないと思います。国道2号をハーバーランドから西へ進むと、ひっそりと忘れ去られたかのようにあるのがこのまちなのです。かつては歴史の表舞台に立ち、ずいぶんにぎやかだったことはほとんど知られていません。

2. まちにちなむご当地クイズ

このまちをより知っていただけるよう、「ご当地クイズ」を出しますので、チャレンジしてください。

- (a) 西出町・東出町は江戸時代の元禄兵庫津絵図にすでに町として描かれています。おそらくそのころから「(西・東) 出町」と呼ばれていたと思われます。では、なぜ「出町」と呼ばれるようになったのでしょうか？どこからの「出町」なのでしょう？
- (b) 西出町・東出町に較べると、東川崎町は江戸時代はわずかの集落にすぎませんでした。明治時代になると、神戸の近代化、川崎造船所の操業とともに急速に都市化します。では、東川崎町と呼ばれるようになったのは、近くに川崎造船所ができたからだという説は正しいのでしょうか？
- (c) 「川崎本通」と呼ばれる通りは、かつてはにぎやかな通りで、朝夕の通勤時間帯は人の波で埋まり、横断もままならなかったようです。さて、この通りは明治時代の中ごろまでは何だったところでしょうか？

答えと解説は、次回をお楽しみに。

3. 『太陽の子』の舞台

児童文学で著名な灰谷健次郎（1934－2006）の代表作に、『太陽の子』があり、映画化もされました。この小説・映画の舞台になったのがこのまちです。

この小説に当時のまちの様子が生き生きと描かれています。少し長くなりますが、引用します。

「てだのふあ・おきなわ亭がある神戸の街は、ランプのカードをなん枚も横にならべてみせたような街で、古くからトアロード、外人墓地、メリケン波止場などといういかにもモダンな風なものがあり、市役所広場の時計を四季の花でかざって、花時計と呼んだり、三宮駅から神戸税関に至る道をフラワーロードと名づけてみたり、ポートアイランドにポートタワーと、

ひどくおしゃれな印象を与える街であった。

もちろん、それも神戸の一つの顔にはちがいがなかったが、ふうちゃんのあるミナト町はそういうお化粧をしようにもお化粧のしようのない下町であった。

湊川の土手が発達してできたといわれる新開地を、東寄りに海の方へさがると、つきあたりに川崎造船所があり、造船所の正門にいたるまでの界隈は労働者相手の大衆食堂や酒場が軒をつらねている。すぐそばに市場があるので、早朝からとびかっているにぎやかな声は終日消えることがなく、夜は夜で、酔っぱらいの歌声やわめき声がおそくまできこえて、いったいこの町はいつ眠るときがあるかと思うほどだった。

神戸の中心が三宮附近に移ってから、新開地はさびれる一方なのだったが、浜側のこのあたりは、そういうことに関係なく、働く人びとの熱気でいつもむんむんしていた。

市場の筋が切れると、そこにお稲荷さんがあった。赤い鳥居が幾重にも建っているところなど、いかにも下町の風情だった。

そこから南は、路地が格子もように通っている。つきあたりは港である。港には小さな造船所、船具店、倉庫などが目白押しにならんでいた。海はおびただしはしけ、タグボートの類で埋まってしまっていた。

路地にかこまれた家々は戦災にあっていなかったもので、昔ながらの軒のひくい、ところどころ白壁などの残っているいまだきめずらしい家が多く、古びて、いまにもくずれそうなところは、両隣で支えあっている。つまり、おおかたは長屋なのであった。

長屋には人が住んでいるだけでなく、小さな鉄工所や鋳物工場、製缶工場、また、真鍮だけをけすったり切断したりする工場とも店ともつかない所、ワイヤロープを専門にあつかっている店などがあって、ここにはお化粧のしようのないもう一つのミナト神戸の顔があった。」



※この写真は1981年の駄菓子屋さんの店先です。この空間は今もあるのでしょうか？（次回へ続く）

まちづくり会館ギャラリー 企画展のお知らせ

きらめく四季 ~水彩と木版で描く風景~

橋本邦彦 突々和夫 二人展

7月30日(木)~8月4日(火) 午前10時~午後6時(入場無料)



今回の企画展では、橋本邦彦氏(水彩画)と突々和夫氏(木版画)のお二人の風景画作品をご鑑賞いただきます。

橋本邦彦氏は1942年神戸市のお生まれで、会社勤務をしながら水彩画を学んでこられました。主に近畿・関西圏の風景を水彩によって詩情豊かに描いてこられ、特に消え行く茅葺き民家のある日本の原風景を数多く描いておられます。今回は、それらに併せて身近な神戸の風景の水彩画をご覧ください。

突々和夫氏は1929年京都市のお生まれで、長らく神戸・西宮の公立の高校で美術の教鞭をとる傍ら創作活動を続けてこられました。1980年に金山賞候補美術展に木版画を出品されるなど、木版画という手法で大和の地などをテーマにした多数の作品を描いておられます。今回は大和、瀬戸内、神戸北野の異人館などの比較的身近な地域の木版画を特集しています。

まちづくり会館 展示のお知らせ

1階オープンギャラリーの予定

期間	テーマ・内容	主催者
6月	土砂災害防止月間パネル展	国土交通省六甲砂防事務所
7月	神戸景観・ポイント賞	神戸市都市計画総局
8月	(~17日) 神戸空港・ベイシャトル	神戸市みなと総局
	(18日~) 神戸市における景観まちづくり	神戸市都市計画総局

※展示期間が変更になる場合があります。

地階ギャラリーの予定

期間	テーマ・内容	主催者
5月28日(木) ~ 6月2日(火)	第20回 KP展<パステル>	神戸パステル画会
6月4日(木) ~ 6月9日(火)	第21回 遥洋会 油絵展	遥洋会
6月11日(木) ~ 6月16日(火)	そらいろの会展<油彩・水彩等>	そらいろの会
6月18日(木) ~ 6月23日(火)	神戸高校2回生作品展<油彩・水彩等>	神戸高校2回生
6月26日(金) ~ 6月30日(火)	風の会 作品展<水彩>	風の会
7月3日(金) ~ 7月7日(火)	淡味篆会 社中展<書道・篆刻>	淡味篆会
7月10日(金) ~ 7月14日(火)	アルペジオ合同教室 作品展<油彩・水彩等>	アルペジオ
7月17日(金) ~ 7月21日(火)	のむら・アート・るーむ作品展2009<油彩・水彩等>	のむら・アート・るーむ
7月23日(木) ~ 7月28日(火)	第29回三滴会書道展	三滴会
7月30日(木) ~ 8月4日(火)	(企画展)橋本邦彦・突々和夫二人展<水彩・木版画>	こうべまちづくり会館

※初日、最終日は展示時間が変更になる場合があります。



こうべまちづくり会館

開館時間：午前10時~午後6時(水曜日休館)

場所：元町商店街4丁目西端の南側角

地下鉄海岸線「みなと元町駅」西1出口から北へ1分

神戸高速「花隈駅」東口から南へ3分

「西元町」東口から東へ5分

JR・阪神「元町駅」西口から西へ8分

〒650-0022 神戸市中央区元町通4丁目2-14

電話：078-361-4523 FAX：078-361-4546

ホームページ <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp>

コミュニティ相談センター(まちづくり会館4F)

自治会の会報等の印刷サービス、運営等の相談

受付：午前10時~午後6時(水曜日休館)

ただし、印刷は5時まで

電話・FAX：078-361-4565